

は最上部がハングとなっている。ショルダーで佐藤君  
を押し上げ、あとはザイルをたらし引っ張り上げる。  
このあとまもなく二俣となり、右沢に入る。

右沢はかなり細い流れとなったが、小滝が次々として  
出てきた。そのほとんどは直登でき、退屈しないで登れ  
た。やがて4mのハング滝。左岸を捲いて越す。もう  
沢は細い流れとなり、ヤブもかかってきて漂流の装い  
である。1655mピークより上部に来ていることを確認  
してから右手に藪をこいで、旭直沢(仮称)をめざす。

尾根を越して旭直沢(仮称)に下ろうとしてあたりに  
ギョウジャニンニクが多数生えているのに気づいた。  
長年山歩きをしているがこんな大群落を見たのは初め  
てである。ギョウジャニンニクはこの先滝が出てくる  
までの旭直沢(仮称)の兩岸に多数見られた。沢の中に  
落ち込んできているのを中心に、今晚のおかずを採取  
させてもらった。

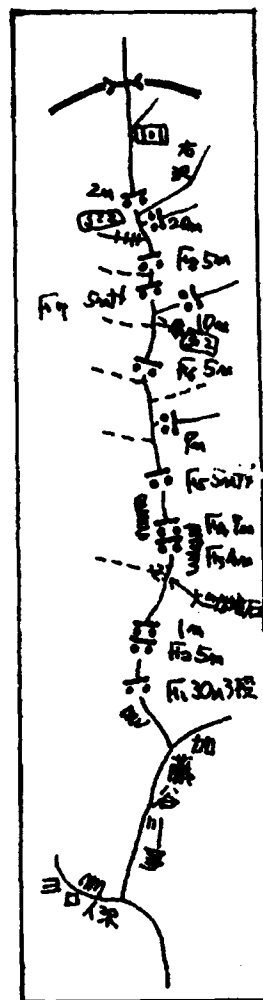
旭直沢(仮称)の源頭は、旭岳から落ち込む急なガレ  
場状となり、水の流れはなく、浮石が沢を埋めている。  
源頭部分などいつ落石がきても不思議でない感じであ  
る。

20分程下ってようやく水の流れが出てきた。と思う  
とすぐ大きな滝である。20m程の落差がある。左岸を懸垂で下る。そのすぐ下にも  
また20m程の滝。これは左岸ブッシュ帯を少し下ったあと、やはり懸垂で下る。

2つの大きな滝を懸垂で越えてひと息つくまもなく、この先次々と流がかる。  
5mクラスのものばかりで、ほとんどがクライミングダウンでさこが、岩がもろい  
のには参った。どうやらこの沢は、硬い岩と軟らかい岩が交互に重なりあっていて、  
その境目が滝となっているようである。

旭沢(仮称)右俣出合も間近となった所に最後の華をかざるようにして再び大きな  
滝が出てくる。ここは完全な空中懸垂で下るよりなかった。

旭沢(仮称)右俣出合からは平凡となり、今朝方遡行していった左俣との出合ま  
で下って沢より上がる。



ニゴリ沢 7月1日 幕営地(6:00)→加藤谷川・ヨロイ沢出合(6:15)→ニゴリ沢出合(6:30)  
左俣

→二俣(7:50)→遊行終了(8:35)→幕营地(10:00)

今日は早いうちに切り上げて帰る予定でこのニゴリ沢を選んだ。砂防ダムを建設した時に開かれた道をたどってヨロイ沢と加藤谷川の合流点に出、6:15遊行開始。

ニゴリ沢出合までは平凡な川原歩きである。この沢は釣師がかなり入るようである。魚の影はあまり見なかったが、エサの箱やテグスを着いたリールなどがあちこちころがっていた。

6時30分、いよいよニゴリ沢の遊行にかかる。出合から少し入った所に30mのこの沢一番の滝がかかる。下から見ると2段に見えるが、実際には3段である。左端の小流にそって登るのが一番楽である。ホールドに不自由することなく快適に登れる。中央部分も直登できるが、こちらはややホールドが少ない。

幸先がよいと喜んで歩を進めると、今度は連続する2つの滝である。左岸を直登できるが、我々がこの滝にさしかかった時、丁度朝日が真上からさして、何もいぬ味わいがあった。

この先はもう期待したほどのこともなく、平凡となってしまい、二俣へ。右俣には10m程の滝がかかるのが見えていたが、今日は左俣ということで先に進む。平凡な沢筋のまま藪がかかってきたと思ったら、まもなく林道であった。遊行終了8時35分。

(記・)

## 6. 飯森山群・大桧沢、湯ノ沢、熊沢

飯森山群は、我々としてはまだ足跡を記していない地域であったが、今夏初めて3本の沢の遊行を記録した。あまり知られない山城であり、活字になった記録も少ないと思うので、山行になるようここに紹介する。

### 大 桧 沢

1984年7月28日

L

前夜は日中ダムそばにテントを張ってビパークした。6時30分ビパーク地出発。沢ぞいに林道を最後まで歩く。林道終点で右下に下り、大桧沢にかかる橋を渡る。このあたり国道の改修工事が盛んに行われていた。

飯森沢出合までは、沢ぞいにはっきりした道が着いている。飯森沢出合の少し奥に、かつては飯山キャンプ場があったとかで、今でも道の手入れだけは時々行われ